

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「“匂い”が買える時代 人工的な香りを体験」
  - 2) 「日常着が月6264円で借り放題」
  - 3) 「ごみ問題解消か、虫で発泡スチロールを生物分解」
- 

1) 「“匂い”が買える時代 人工的な香りを体験」

ショッピングモールで買い物中に漂ってくるコーヒーの香りにフードコートで立ち止まった経験がある人も多いのではないだろうか。DMM.comがスタートアップ製品の流通や販売を支援する「DMM.make SELECTION」の第1弾の取り扱い製品の1つに、ザーズ株式会社による匂いの販促ツール「ZaaZ 3」がある。

ZaaZ 3にはENERGYと呼ばれる匂いのついた専用の液体カートリッジをセットして利用する。1台で最大50坪（約165平方メートル）の範囲のエリアを好きな香りにデザインできるが、驚くのはその種類だ。約2000種の元となる香りを調合して、オリジナルの匂いを作成する。

例えば同じように感じるコーヒーであっても「深夜のサービスエリアで飲む缶コーヒーの匂い」と「イタリア人のバリスタが淹れたカプチーノの匂い」は別に作られる。その空間や飲み方などで感じる匂いの繊細な違いを表現しているのだ。

DMM.comの提供するオンラインショップDMM.make STOREでは、「昼下がりに自由が丘のカフェで食べるふんわりしたトーストの匂い」「バスタオルを巻いたお風呂上がりの女の子の匂い」「切り出したばかりの木の匂い」「少年に呼びとめられたお姫様が立ち止まり、振りむいた瞬間の匂い」「1872年にテキサスで髭の男が淹れたブラックコーヒーの匂い」の5種類の香りがそれぞれ7106円で、ZaaZ 3本体が9万8000円（税込）で販売されている。その他にも調香師が注文にあわせて作るオーダーメイドのENERGYの受注も受け付ける。

匂いの空間デザインは以前からあるが、ネットで手軽に買えるという点では話題になるだろう。匂いの名前もユニークでおもしろい。食品を扱う店舗で匂いの空間をつくりだすのは必ず効果的であるとは限らないが、匂いによって購買意欲が高まる商品などを今後見つけていくのもひとつ課題になるかもしれない。

---

2) 「日常着が月6264円で借り放題」

宮崎あおいがCMキャラクターを務めるearth music&ecologyアースミュージック&エコロジー。ブランドを運営するクロスカンパニーが、この度ちょっと面白いサービスを始めたようだ。名前は「メチャカリ」。

誰も一度は「洋服を毎シーズン買うのってバカバカしい」「お金がいくらあっても足りない」と思ったことがあるだろう。トレンドの移り変わりが激しいレディースならなおさらだ。

「メチャカリ」はアプリをダウンロード、会員登録すれば簡単に使えるレンタルサービス。システムは少々複雑だが、5800円＋税＝6264円で最大3点までレンタル可能（手元に置

いておけるのが最大3点)、アプリ上で申請してレンタル品を返却すれば返却した点数分だけまた再びレンタル可能になる仕組みだ(返却手数料=1回500円+税)。

サービスで肝心なのは、商品。どれだけの量が揃っているか、またどれだけトレンドに即した服が揃っているかだが、数は1000型以上、商品自体も通販サイトと同様に今期品を扱う予定だそうで、ラインナップは申し分なさそう。またブランドも今は「earth music&ecology」のみだが今後は「E hyphen world gallery」

「SEVENDAYS=SUNDAY」など同社の人気ブランドが順次追加されていくとのこと。アプリを見るとコーディネート提案もきっちりしており、価格帯も高単価なアウターなどもレンタル品に含まれており充実の内容。

「でも月額5800円+税って高いのでは?しかも借りるだけ??」と思うかも知れないが、気に入ったものは60日間過ぎればなんと手元に残しておけるのだ。これが「メチャカリ」最大のウリ。60日間過ぎれば「レンタル」じゃなく自分のものになる、しかも手に入った物は「レンタル最大3点」の内にカウントされなくなるという画期的なシステム。

「コーディネートまとめてレンタル」などもアプリ上で可能とのことなのでお出かけ数日前にコーディネートを選んで注文することもできそうだ。今回はクロスカンパニーだけの運営だが、もう少し大人なブランドでも広がっていくのではないだろうか。

---

### 3)「ごみ問題解消か、虫で発泡スチロールを生物分解」

ペットショップなどで販売されているミールワームに発泡スチロールを食べさせると、腸の中で生物分解可能な物質に変換されることが1日までに分かった。北京航空航天大学や米スタンフォード大学の研究チームが学会誌に発表した。これまでプラスチックは生物分解できないと思われていたが、今回の発見は世界のプラスチックごみ問題の解決につながる可能性がある」と指摘している。

ミールワームはゴキブリの幼虫で、ペットショップなどで一般的に販売されている。スタンフォード大学のウェイミン・ウー氏らの研究チームによると、ミールワームの腸の中にはポリエチレンを生物分解できる微生物がいることが判明。発泡スチロールを餌として与えたところ、幼虫100匹で1日当たり34-39ミリグラムの発泡スチロールを食べたという。幼虫が食べた発泡スチロールは二酸化炭素や生物分解可能な廃棄物に変換され、植物や作物の土壌にも安全に利用できそうなことが分かった。幼虫の健康状態は、普通の穀物などの餌を食べさせた幼虫と変わらなかった。

研究チームによれば、ゴキブリなど他の昆虫でもプラスチックを餌にできる可能性はあるという。ただしこうした昆虫による生物分解はまだ確認されていない。

ミールワームの腸の仕組みを解明すれば、プラスチックごみを分解する方法や、生物分解可能なプラスチック製造法の発見につながるかもしれないと研究チームは期待を寄せている。

人間の都合で生み出した化学物質を、自然の力で処分してもらえるというのはとてもありがたいことだ。虫に頭があがらない。処理方法や有機プラスチック開発の研究が良い方向に進むことを期待しつつ、いつか将来人間が自分で処理できる時代が来るかも...という期待を持ったつもりだ。